

【科目名】 食の心理学		【担当教員】 宮岡 里美						
【授業区分】 RP 専門分野 (応用心理学)	【授業コード】 6-35-2090-0-1	研究室 E 棟 2 階 内線 311 (メールアドレス) <a href="mailto:miyaoka@nur05.onmicrosoft.com">miyaoka@nur05.onmicrosoft.com</a> (オフィスアワー) 月～金 9:00-17:00						
【開講時期】 2・3年次 前期	【選択必修】 RP 必修							
【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ							
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回、出欠及び遅刻・早退を確認します。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。								
【講義概要】 (目的) 従来“食べることは本能だ”といわれていました。しかし、摂食障害や認知症の拒食等の問題行動から、食行動には心理的要因も大きく関与していることがわかってきました。本講義を通して、科学的知見を踏まえて、食の心理的側面について理解することを目的とします。  (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。								
【一般教育目標(GIO)】 「食べる」行動の生理的基礎、好き嫌い、社会文化的影響及びその病理までを包括的に学ぶ。 【行動目標(SBO)】 発達・学習・動機づけ等の基本的知見から、食行動を考察できる。 乳幼児～高齢者に至るまでの食の問題行動を実例を通して知り、心理療法等の適切な対処法を修得する。 将来の医療/福祉現場で、各自が食の問題行動をもつ対象者に対し、適切に対応できる基礎を身につける。								
【教科書・リザーブドブック】 特に指定せず。								
【参考書】 たべる：食行動の心理学 (人間行動学講座 2) / 今田純雄・中島義明 (編) / 朝倉書店 (1996/09) / ¥5,040 たべることの心理学—食べる、食べない、好き、嫌い / 今田純雄 / 有斐閣選書 (2005/08) / ¥2,100								
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100 点満点で 60 点以上を合格とする。								
【達成度評価】	試験	小テ スト	レポート	成 果 発表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	70	0	0	0	0	100 点
評 取り込む力・知識		10	20					

平成 26～28 年度入学者用

価値指標	思考・推論・創造の力		10	20				
	コラボレーションとリーダーシップ							
	発表力		10	30				
	学修に取り組む姿勢							
<b>【授業日程と内容】</b>								
回数	講義内容	授業の運営方法	学修課題(予習・復習)		時間(分)			
1	人間の食行動 生理的/認知的/物理・化学的/文化・社会的要因	講義 一部演習	クイズ (小テスト) 講義時間内で実施					
2	青年期の食行動の特徴と問題Ⅰ 「摂食障害」 痩身願望とダイエット 拒食 過食	講義						
3	青年期の食行動の特徴と問題Ⅱ 摂食抑制と過食のメカニズム	講義						
4	乳幼児期の食行動の特徴と問題 味覚・嗜好の発達 食物拒否 偏食(好き嫌い) 小食	講義	レポート作成 論文の抄録・考察		120			
5	児童期の食行動の特徴と問題 朝食の欠食 食欲不振 孤食 食行動と健康 食育教育	講義 一部演習						
6	成人期の食行動の特徴と問題 家庭の食卓 外食 個食と孤食 “崩食”	講義 一部演習	クイズ (小テスト) 講義時間内で実施					
7	老年期の食行動の特徴と問題 味覚・嗅覚の変化 入院・施設入所と食欲不振 食の孤立 認知症と食行動異常	講義						
8	現代社会と食 情報とおいしさ 食の安全・安心とは？	講義	レポート作成 論文の抄録・考察		120			

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。